

# カンピロバクター食中毒とギランバレー症候群



## カンピロバクターってどんな菌？

カンピロバクターは動物、特に鶏の腸内に常在する菌で、感染すると発熱・下痢・腹痛・頭痛・吐気・倦怠感などの症状を示します。

食べてから発症するまでの時間が長く（2～7日間）、発症しても原因がわからないことが多くあります。また食中毒の症状だけでなく、ギランバレー症候群といって筋力低下の進行から、手足の麻痺・呼吸困難などの症状を引き起こすこともあります。



カンピロバクター・ジェジュニ  
電子顕微鏡撮影画像  
(国立感染症研究所撮影)



## 感染の経路は？

カンピロバクターで汚染された食品を摂食することで感染します。一般に販売されている鶏肉は高率に汚染されており、生食用は特に注意が必要です。また、まな板等を介して他の食品が汚染され、感染することもあります。



## ギランバレー症候群ってなに？

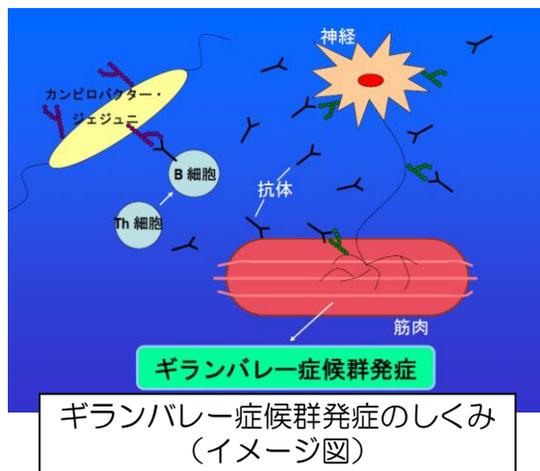
ギランバレー症候群は、主に筋肉を動かす運動神経が障害され、手足の麻痺が起こります。ギランバレー症候群は、特定疾患に認定されたいわゆる難病であり、人口10万人あたり約1人が発症していると考えられています。また、約6割のギランバレー症候群発症者には、細菌・ウイルスなどの微生物による先行感染がみられており、原因菌としてカンピロバクター属菌の一つであるカンピロバクター・ジェジュニによるものとされています。

福岡市保健環境研究所では調査研究として平成23年度にカンピロバクター・ジェジュニのギランバレー症候群に関わる遺伝子の保有状況を調査しました。この研究で得られた成果を交えながら、カンピロバクター・ジェジュニによる食中毒とギランバレー症候群発症の関係についてご紹介します。

# カンピロバクター食中毒とギランバレー症候群

## 🍷 ギランバレー症候群発症のしくみ

通常、人がカンピロバクターに感染すると、体を守るしくみ（免疫反応）によってカンピロバクターを退治しようとしてします。しかし、カンピロバクター・ジェジュニの一部は**ヒトの神経の細胞と似た形**をしており、体を守るはずの免疫反応により間違っ**て自分自身の神経細胞が攻撃される**ことがあります。カンピロバクター感染後によるギランバレー症候群は、このようにして手足の麻痺などが起こると考えられています。



## 🍷 ギランバレー症候群に関わる遺伝子の調査

カンピロバクター・ジェジュニがヒトの神経の細胞と似た形をとるためには、シアル酸転移酵素・N-アセチルガラクトサミン転移酵素・およびガラクトース転移酵素という**3種の酵素を生成するための遺伝子を保有する必要がある**があります。

当所では食中毒患者や食肉類由来のカンピロバクター・ジェジュニ株について、これら**3つのギランバレー症候群関連遺伝子の保有状況を平成23年度に調査**しました。結果は下表の通りでした。

調査株数		3種のギランバレー症候群関連遺伝子を保有する株数
食中毒患者由来	56	9(16.1%)
食肉類由来	67	10(14.9%)
合計	123	19(15.5%)

## 🍷 まとめ：鶏の生食はやっぱり危ない！

今回の調査で、食中毒患者由来のカンピロバクター・ジェジュニ株と鶏肉を汚染しているカンピロバクター・ジェジュニ株は、それぞれ**15%程度がギランバレー症候群発症に**関与する**3つの遺伝子を保有している**ことが判明しました。

ギランバレー症候群発症には未解明な部分があるため、今回の調査結果のみで一概にカンピロバクター・ジェジュニによるギランバレー症候群発症のリスクについて言及することはできませんが、少なくとも**鶏肉を生で食べたり、加熱不十分な調理法では、カンピロバクター食中毒だけでなくギランバレー症候群発症のリスクが潜んでいる**と考えられます。